

第4章 食品リサイクル・環境への取組みの自己チェックの手引き

食品リサイクル・環境への取組みの自己チェックは、現時点での取組み状況を認識することにより、今後実施していくべき具体的な取組みを明らかにすることを目的としています。

別表2のチェックリストは、すべての食品関連事業者が利用できるようになっています。このため、業種や個別の事業所によっては、関連のない項目もあります。関連がないと判断できる場合には「/」を記入してください。

関連があると判断できる場合には、それぞれのチェック項目について、以下のように記入してください。

・既に取り組んでいる項目には	○
・ある程度取り組んでいるが、さらに取組みが必要な項目には	△
・取り組んでいない項目には	×

自己チェックの結果、「△」、「×」が付された項目のうち、今後重点的に取り組んでいく必要があると考えられる事項は、第5章の環境経営システムにおいて設定する食品リサイクル・環境目標とし、重点的に取り組むことを検討してください。

また、チェックの結果は保存しておき、毎年の取組みの進展の把握に活用して下さい。

なお、チェックリストは以下のような構成になっています。

【 食品リサイクル・環境への取組みチェックシートの構成 】

食品リサイクル・環境への取組みに関する項目	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の開発等における食品リサイクル・環境への配慮 ・食品廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理 ・トレーサビリティ（追跡確認）及び再資源の使用 ・食品循環資源の再生利用への取組み
事業活動へのインプットに関する項目	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー、新エネルギー使用の拡大 ・省資源、グリーン購入 ・節水、水の効率的利用
事業活動からのアウトプットに関する項目	<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化炭素の排出抑制、大気汚染等の防止 ・排水処理 ・輸送に伴う配慮 ・産業廃棄物の委託処理、マニフェスト ・一般廃棄物の委託処理、マニフェスト
環境経営システムに関わる項目	<ul style="list-style-type: none"> ・仕組み・体制の整備 ・環境教育、環境保全活動の推奨等 ・情報提供、社会貢献、地域の環境保全 ・環境ビジネス、技術開発 ・投資・融資における食品リサイクル・環境配慮

◆ 環境への取組みのチェックに当たっての留意事項 ◆

前頁の方法により取組みの自己チェックが行えますが、さらに進んだ取組みを行おうとする事業者の方は、次のような方法で、定量的に取組み状況を把握することもできます。

◎ 点数化して全体の進捗状況を集計する方法

「○」「△」「×」の数を集計し、自らの取組みに点数をつけて評価するのも有効な方法です。

例えば、各項目毎に環境への取組みに対する重要度を設定し、合わせて取組み状況「○」「△」「×」を点数化して、以下のように評点することもできます。

①『○』『△』『×』のいずれかのチェックが入った項目について、次の通り点数付けする。

＜重要度＞

- 食品リサイクル及び環境保全に、**重大な効果**がある項目を・・・3点
- 食品リサイクル及び環境保全に、**かなり効果**がある項目を・・・2点
- 食品リサイクル及び環境保全に、**多少効果**がある項目を・・・1点

※ **重大な・かなり・多少**の判断は、自ら行ってください。

② 上記①でつけた点数に次の点数を乗じる。

- 『○』の項目は・・・2点
- 『△』の項目は・・・1点
- 『×』の項目は・・・0点

《例》

「重大な効果がある」と判断した項目について『○』である場合 … 3×2=6点

「かなり効果がある」と判断した項目について『×』である場合 … 2×0=0点

「多少、効果がある」と判断した項目について『△』である場合 … 1×1=1点

③『/』を除く全項目について、上記②で得た点数を合計する。

この数値を「食品リサイクル・環境保全取組み度数」とし、これを基に年々の環境への取組み状況を比較する。

◎重要な項目について指標を設定する方法

チェックリストの中で、事業者自身が特に重要であると考えられる項目がある場合には、その項目についての取組み状況を表す指標（環境目標）を自ら決めて、その進捗状況を定量的、また、継続的に把握していくことも考えられます。特に、第3章の「食品廃棄物・環境への負荷の自己チェック」でカバーされていない分野については、こうした取組みは有効です。

参考までに例をあげれば、次のような指標が考えられます。個々の事情に合わせて、工夫して下さい。

○ 低公害車への代替の割合 (例：低公害車保有台数/自動車保有台数)	←	「輸送に伴う環境負荷の低減」
○ 食品リサイクル・環境への取組みに必要な教育を受けた社員の割合 (例：環境研修受講人数/全社員数)	←	「環境への取組みのための仕組み・体制の整備」
○ 食品循環資源から作られた堆肥を利用して栽培した食品の使用量 (例：堆肥を利用して栽培した食品の使用量/食品材料の使用量vt)	←	「食品循環資源の再生利用への取組み」